学苑・近代文化研究所紀要　No. 803　102～123（2007・9）

〔資　料〕

昭和40年代の生活世界（その1）

—新聞記事にみるアパート団地・ニュータウン・郊外住宅—

西　脇　和　彦

Lifestyle in the Showa Era 40s

—Apartment Developments, New Towns, and Residential Suburbs That Appeared in Newspapers—

Kazuhiko Nishiwaki

1　はじめに

「近代化」における国民生活のメルクマールとして，わが国の高度成長期におけるアパート団地・ニュータウン・郊外住宅に着目し，そこに暮らす人びとの姿を当時の新聞記事から引用し追体験している。そこには，「近代化」の先駆的，象徴的な国民的生活が反映されている。前稿までは高度成長期の前半に相当する昭和30年代を扱ったが（『学苑』近代文化研究所紀要 No. 778 pp. 53-77 2005. 8，No. 790 pp. 105-113 2006. 8），本稿では引き続き，その後半に相当する昭和41年から48年までを扱う。「近代化」にともなう数々の特性を，プラス面でもマイナス面でも確認することができる。団地力の拡大・深化，利便性の追求のみならず，早くも問題点・矛盾点さえみることができる。また生活者のリアリティを再構成する資料として新聞記事を援用するのは，マクロなトレンドとミクロな事例を結節するメゾ的位置をそれが占め，中間資料としての新聞記事の価値を大と考えることによっている。

それでは全国紙（東京版）の4紙から順次該当個所を抜粋しよう。なおここでも団地計画ないしは行政上の見地よりも，団地生活それ自体やその生活様式などを優先することにする（本稿でも年号は昭和を使用した。また引用は当時の表記のままとしたが，漢数字表記の一部はアラビア数字に改めた）。

2　『毎日新聞』の記事から

［宅地進出で車ブーム　三多摩が全国一 2.4軒に1台］（41. 1. 6）

小型乗用車の増加が目立ち，持ち主は団地族や宅地ブームに乗った農家の人たち。（中略）

三多摩地区では毎月平均4,000台近い車がふえており，その半分以上が排気量2,000 cc以下の乗用車。団地が国鉄の駅から遠いところにドシドシ建てられているため，駅までの通勤用が多く，また宅地ブームに乗った農家の二世たちが乗りまわす“レジャー専用”も目立ち“三多摩の人は車がお好き”というわけ。

［団地にかなでるピアノ教室］（41. 1. 25 夕刊）

不況知らずのブーム

幼児のピアノ教育が全国的に静かなブームを呼んでいる。とくに団地ではあの窓，この窓からポンポンポンと“子供のためのバイエル”がにぎやかにこだまし，4才から7才の就学前の子供のいる家庭でピアノの有無は生活水準のバロメーター的存在。流行の基盤は楽器メーカーが販売市場の開拓をねらってはじめた“ピアノ

教室”だが，いまでは買いたい人が多くて生産が間に合わず，予約して2，3ヵ月たたぬと手にはいらないほど。その最大の得意先が団地。

（中略）カー，クーラー，ピアノが最近の家庭の三種の神器とかいわれるが，新品で18万円台から買え，分割払い制度をとっているピアノは一般サラリーマンにとって一番手の届きやすいところだ。そこで何かといえばお隣，向かい同士の競争心のはげしい団地では，ピアノを買う家庭が急増している。（中略）

「○○さんでも買いましたヨ。お宅もいかがです」とセールスマンにいわれるのが団地の住人の泣きどころらしい。ともかく玄関の扉（とびら）をはずして4，5人がかりでかつぎ込んだり，クレーンでつるして窓から運ぶなど，ピアノを入れるのに大騒ぎするのも団地名物の一つ。

[団地ぐるみ「乗らない」 高根台 バスの値上げに反対] (41.3.14 夕刊)

【船橋】“バスに乗らずみんなで歩きましょう”と千葉県船橋市の高根台団地自治会が14日午前6時半から約2時間“値上げバスボイコット運動”を行なった。（中略）

自治会が集めた“不乗運動アンケート”でも団地内52%の人たちが“毎日でも歩く”と回答，値上げ反対ムードが盛り上がっていた。これを“態度で示そう”と同日1日乗車ボイコット運動を展開したわけで，これに合わせ，家賃，諸物価，公共料金値上げ反対も呼びかけた。

[“本当にむずかしいワ” 近所づき合い] (41.6.29)

助け合いが大事だが “うるさいこと”もいっぱい

東京近郊のある建売住宅団地に住むIさんは，最近大変不愉快な日を過ごしている。Iさんのとった行動から，奥さんが近所の奥さん方となんとなく気まずくなって困る，とこぼすのだ。

〈うちの団地・よその団地〉

“団地”が生まれてすでに10年以上にもなる。もう，もの珍しい段階ではないのに，団地に入居するのは逆にだんだんむずかしくなる。そして，団地でおきたことはニュースとしても世間の関心を集める。こうした環境のなかで団地に住む人たちは，次第に新しい中産階級としてのパターンをかたちづくり確立してゆく。ダンチ族—ご本人たちは好まないことばであるが—を見つめることは，日本の社会生活や生活意識がどう変わってきているかを手っとりばやく知ることにもなる。あちらの団地・こちらの団地で展開されている生活や争いや，協同作業をながめながら新しい社会のいとなみをながめてみよう。

（1） 社会的な勢力へ 500万人の新しい階層，ダンチ族 (41.7.4)

2DKを代表する平均人，収入，意識，家族構成など居住者の条件がほぼ同じなら，利害も共通してくるのが多いはずである。（中略）通勤バス，保育所，駐車場，家賃の値上げなど，共通した利害のなかで，問題を解決しているダンチ族はふえている。

しかし，その反面，ふつうならがまんしてしまうようなちょっとした利害の対立にも，強く自我を主張して，逆に問題をこじらせるのもダンチ族に多い。同じ条件，おなじ環境のなかにいるため，ときにはそれは露骨でさえある。

しかし，こうした問題をひとつひとつ解決していこうとするダンチ族に，新しい意識の人たちの誕生がうかがえる。

（2） 団地バス (41.7.5)

「公団におまかせできない」 自治会つくって獲得

（中略）交通機関に限らず道路，保育所，学校，交番…団地の公共施設は入居当初はゼロに近い。国は整

備のために手をかしてはくれない。建てっぱなし，生みっぱなしで交通不便な“陸の孤島”に捨て子にされた格好の団地住民は，うるさく，そして強くならざるをえないのである。

（3） 強い“足”への不満 (41.7.6)
終バスに残業もそわそわ　高い合乗りタクシー

（4） 不備な駐車場 (41.7.7)
欠けた長期ビジョン　マイ・カー族の手で作る
（中略）10年前には今日ほどの自家用車の普及は予想できなかったし，限られた予算の中で一戸でも多く住宅をつくり住宅難を緩和する方が急務だというわけである。ところがいまや駅から遠い団地では，車はぜいたくどころではない生活の大事な“足”になっている。耐用年数70年という団地づくりに，長期のビジョンが欠けていたことが，こんどの各団地の駐車場をめぐる騒動の原因といえそうである。

（5） 6畳，4畳半の私設保育所 (41.7.11)
働くママたちが手をつないで子供を守ろう－こうした母親の願いが一つになって“七人の保育の会”が生まれた。ここは千葉県柏市の戸数4,666の豊四季団地。公立の保育所が設けられるまではと，働く母親，主婦がスクラムを組んで涙ぐましい努力を続けている。

（6） 東久留米（東京）団地の実情報告書 (41.7.12)
カンガルーになりたい「公立保育所」を待つ母たちの悩み

（7） 保育所づくりの壁 (41.7.13)
どこも赤字にあえぐ　シリごみする自治体，サービス会社

（8） 物価高にアイデア (41.7.14)
生産者から共同購入　献立も“階段会議”で，当番制の買い出し

（9） 物価高と闘う (41.7.18)
行商とタイアップ　“大あぐら”のマーケットもやっと正座

(10) “高い値段”をニラむ (41.7.19)
手をつなぐ自治会　各団地共同で仕入れも大量に

(11) 15円牛乳 (41.7.20)
消費者の自覚と団結　“作戦”一つで値引き確保

(12) 生活協同組合の活動 (41.7.21)
安く仕入れ安く売る　“お手本”示した千里ニュータウン

(13) 近隣への態度 (41.7.25)
“開国型”と“鎖国型”と　つき合いは階段から始まる
よきにつけ，あしきにつけ，団地を象徴する鉄のドア

(14) 暮らしのムード作り (41.7.26)

2DKも工夫しだい　夫婦で楽しい模様がえ

(15) 集団意識 (41.7.27)

問題がおこったが…　自治会結成への道もまだ　星ヶ丘団地の場合

名古屋の東郊，星ヶ丘団地（千種区）で“学区費”をめぐって，団地内で対立が起きたのはことしの5月末である。いまだに対立がとけない同団地では，自治会すらいつできるかわからない。自治会を作ろう，という呼びかけに，団地内の多くの住民があまり熱心でないからである。団地の自治―集団の意識は果たして変化しただろうか。

(16) ふえる空巣被害 (41.7.28)

裏に回ればスキだらけ　いちばん仕事しやすい　うそぶくコソドロ

（中略）まず，いちばんネラわれやすいのがベランダ。玄関のドアは外出の時はかならずといっていいほどカギをかけてゆくが，ベランダ側の窓はかけ忘れが多い。2，3階のベランダになると，ちょっと見にはなかなか登れそうには見えない。それも1つの盲点だ。「手スリの上に立てば，すこし身が軽い者なら上の階にのぼるのは簡単だ」とこのドロボウは自供している。（中略）

団地では奥さん同士は親しくしていても，ご主人の顔を知らない場合も多い。いい意味で長屋的な世話好きも少ない。それだけに，ベランダに登っても「お隣のご主人が，テレビのアンテナの修理をやっている」ぐらいでかたづけられていた。（中略）

留守を見わけるのも簡単だ。（中略）夜，窓を見渡してあかりのついていない部屋をたしかめればよい。そこで，郵便受けを調べて夕刊が入れっぱなしになっていれば99%留守。この方法で留守の家を簡単に見つけていた。

(17) 防犯安全の五ヵ条（上） (41.8.1)

油断大敵！　心にカギ　昼間の来客もノゾキ窓から確かめて

団地の防犯問題にとり組む警視庁防犯課の宮下利明巡査部長は「どんな建物でも弱点はあります。油断をしていたら被害にかかるのはあたりまえ。心のカギをよく締めてかかることが第一です。（中略）」と“団地の安全五ヵ条”をあげてくれた。

第1条〈団地は無人の荒野〉　団地付近でも通り魔

第2条〈鉄のトビラは地獄と天国の境界〉

(18) 防犯安全の五ヵ条（下） (41.8.2)

小さなミスから思わぬ被害を生む　隣近所が注意と協力

第3条〈千丈の堤もアリの一穴からくずれるということ〉

第4条〈広い近所づき合いが団地犯罪を防ぐこと〉

第5条〈快適な条件がかえって安全をおびやかすこと〉

団地のガス中毒事件はかなり多い。（中略）こうした悲劇は恐ろしい密閉状態が原因だ。

(19) おけいこブーム (41.8.3)

団地っ子は悲し　母親のミエの犠牲に

休養の時間がない　ピアノがグンと多い　子供を通じて競争

“おけいこごと”のゆきすぎで，学校の授業中も元気のない子が目立っている

(20) 鍛えられる張り子のトラ (41.8.4)

両親とトレーニング　先生も真剣　耐久力を育てる

体格はいいが，もろい。団地の子は“張り子のトラ”だといわれ出してからかなりになる。鉄筋アパートがもたらす住宅環境，親たちの過保護，過剰な“おけいこスケジュール”こうしたことが重なり合って，耐久力のない，もろい子が育とうとしている。パパたちを通勤ラッシュの犠牲にして，せっかく都心からはなれた農村地区に住んでも，団地から野趣に富んだ子供は，なかなか育ちにくい。

（中略）“団地学校”の先生たちは「発育のよいのは結構だが，耐久力がない。階段でころんだり，ナワとびしただけで骨を折るような，もろい子では困るのです」と悲観的だ。

こうした反省から，赤羽台団地の赤羽台西小学校では，この6月中旬から，2時間目と3時間目の休み時間を10分から20分にのばし，鉄棒，トビ箱，ハードルなど7つのグループに分けて体育施設を自由に使わせている。2週間で種目を交代させている。

(21) 学童ラッシュ (41.8.8)

頭をかかえる周辺校　プレハブ教室，3部授業

（中略）一時，全国的な問題として騒がれたベビー・ラッシュは，まだ団地周辺では続き，深刻な問題をなげかけている。

(22) 団地学校 (41.8.9)

農家の子との差　教育めぐりトラブル　共通の悩みを解く協議会

素朴な農村地帯の学校に突然，団地の子供たちが大量に転校してくると，現場の教師たちはその差にとまどう。都会っ子らしく本から得た知識が豊富，身についた社交性，野原や川など自然に恵まれていながら，1日のほとんどをコンクリートの箱の中の，人工的な環境で過ごしてしまう子供たち。団地の遊び場は低学年向きで，大きな子が創意くふうを働かすよろこびに乏しい。勉強やおけいこごとにも追われるから，冒険を求めて遠出するようなこともない。

これに対して，野原をかけまわってまっ黒になって遊ぶ農家の子。勉強はあまりしないが，畑仕事を手伝ったり家畜のめんどうをみたり，実際的な経験を積んでいる。

どの点をとらえても，団地の子と農村の子は対照的である。そのうえ団地の家庭は比較的学歴の高いホワイト・カラーが半数以上。なにかにつけておおらかな農村地帯の親とは違い，教育に対して注文をつける。

受験競争が，教育ママたちの学校に対するつきあげを，よりはげしくする。

(23) エチケット（上）(41.8.10)

ゲタの響き，テレビの音　ベランダの干し物にも注意

団地内で遊ぶ子供のはしゃぐ声も，隣近所に思わぬ迷惑をかけることがある

（中略）快適な生活を送るためには，普通の住宅地より神経のゆきとどいたエチケットが必要なのではないだろうか。団地の入居者が守らねばならないエチケット“団地べからず5ヵ条”を居住者の話からまとめてみた。まずそのうちの2カ条をみてみよう。

〈音に無関心たるべからず〉〈ベランダは国境と思え〉

(24) エチケット（下）(41.8.11)

プライバシーの確立　迷惑な，好奇心や見栄

〈階段は団地の社交場と心得て〉〈見栄は他人迷惑〉

〈他人の生活に好奇心を持つな〉

(25)　ある団地自治会　(41. 8. 16)

“物価”から“平和運動”まで　活発で幅の広い活動

(26)　手を結ぶ自治会　(41. 8. 17)

住みよい社会をめざし　発言の場得て，改善へ要求

(27)　納涼まつり　(41. 8. 18)

ビヤホール顔負け　年ごとにハデになる

団地自治会は，外に向かってばかりエネルギーを発散しているのではない。内部の運営にも，見るべき成果をあげているところが多い。

(28)　自治会運営のむずかしさ　(41. 8. 22)

役員も一般と同じ層の人　ツイ反発うけやすい

新旧役員が交代するとき，団地自治会でトラブルが起きる原因のほとんどは，金の問題だ。

“役員にはだれでもなれる”と団地は民主的な姿で運営され有力者の独走は許されない

(29)　いつまで続く“公団規格”　(41. 8. 23)

狭すぎる団地サイズ　3 DK ようやくふえたが

住宅公団の計画部では「とにかくいままでは住宅に困っている人を1人でも多く，という考えから1 DK，2 DK を中心に建ててきた。40 年度からは，2 DK から 3 K 以上を中心にしているわけだが，いつまでこの政策を維持できるかわかりません」という。

(30)　理想の永住地？　(41. 8. 29)

耐用期限は 70 年だが　管理次第でスラム化へ

(31)　これからの団地　紙上座談会(上)　(41. 8. 30)

設計にもっと工夫を　合理的にみえて案外不便

団地住まいの人には特に緑を望む声が多い

(32)　公団に望む　紙上座談会　(下)　(41. 8. 31)

いつ，どこに建つのか　便利な場所に申し込める長期計画発表を

(中略) 単に住宅困窮者を救おうという考えだけでなく，団地は都市体系の重要なパートであるとみる認識がこれからは必要になってくる。

新しい団地はだんだん都心を離れて通勤時間はそれにつれて長くなる

[あるなかま　団地のサッカーチーム　常盤平キッカーズ]　(41. 7. 25)

2 週間ごと思い切り　“孤立”なんて吹っ飛ぶさ

[「悪質者は立退かす」　公団 団地の青空駐車に注意]　(41. 10. 1)

住宅公団の団地は東京，大阪，名古屋など全国で 227 団地，約 183,500 世帯が入居している。そのうち自動車を持っているのは 10% の約 18,000 台と推計されているが，団地に駐車場があるのは 73 団地で，建設中の分を合わせても 5,300 台しか駐車できず，3 分の 2 以上が団地内に青空駐車している。(中略)

東京・赤羽台団地では，団地内の道路を仕切って仮設駐車場をつくったため「駐車場より子供の遊び場や緑地をつくれ」という非難の声があがっている。逆に入居しているオーナードライバーは「いまや車は生活必需品も同然」と反発している。

［また“抽選なし”が続出　きらわれた公団分譲住宅］（41.10.27）

日本住宅公団の分譲住宅募集で26日，また大量の無抽選当選，定数不足がでた。公団は同日，船橋市の習志野台団地，立川市砂川の西けやき台団地の普通分譲住宅の抽選結果を発表したが，（中略）定数に満たぬ区分も2つあった。

これらの理由としては，①都心から遠い②ことしからはじめられた頭金30万程度の特別分譲住宅にくらべ高い③賃貸住宅と同じ中，高層アパートで変わりばえしないなどが考えられ，今後場所の選定，やり方など検討したいといっている。

〈女の気持〉［団地への夢］（42.2.1）

（中略）こんどこそは当たってほしい。いつも喜び勇んで，遠い出張所へ足どりも軽く出かけるのだ。そして申し込んだだけで，当たったような，はずんだ気持で「六畳にはあれを置いて，四畳半にはこれを」と，あれこれ想像する。そんなとき，夢があって，とても幸福に思う。何百倍もの競争率のあることを，すっかり忘れて…。

（中略）やがて新聞がくる。抽選番号を片手に，息をころして見入る。あげくのはて，がっかりするのが常なのです。こんどこそは…という奇跡を願って，また申し込む。（東京都杉並区上荻・前田時子・主婦・27才）

〈すまいのガイド〉［遠くても“駅まで車”なら］（42.3.1）

（中略）都市の郊外での住宅適地は，年々，都心から遠方へと伸びてゆくが，それもせいぜい駅から徒歩15分程度のところまでで，帯のように鉄道沿いに細長い住宅地ができてゆく。（中略）

朝，駅まで自動車で来て，車は夕方まで駅前広場の駐車場に置く。奥さんに駅まで送ってもらうというのも一方法。夕方は奥さんが駅まで迎えに行く。その途中，夕食の買い物をすますという寸法。（中略）

［団地ねらう新手の空巣］（42.3.22）

メーター・ボックスから侵入　「お宅は？」警視庁が点検呼びかけ

公団アパートなどの玄関わきのガスや水道メーターのボックスをあけ，床下にもぐって室内に侵入する新手口のドロボウの被害が出はじめた。（中略）

このため警視庁防犯課では，団地の人たちに①自分の家のメーター・ボックスを調べ，侵入できるような構造になっていたら，管理者に連絡，金網をつけるか鉄棒を補充して侵入口に利用されないようにする②不審な人がメーター・ボックスをあけていたら声をかけて身分を確かめる－などの注意を呼びかけている。

［団地牛乳　16円で配達できます］（42.8.25）

赤羽台・自治会の戦果　アルバイト作戦で　“よその団地”とも手を組む

〈都市の構図〉［13年目，2DKは悩む　いつ実現する？「就寝分離」］（42.8.26）

“団地”は都市生活のパターンである，ということをよく聞く。そして，あまり違いのないコンクリートの“住まい”から，そこに住む人たちの生活そのものまで，ともすれば画一的に見られがちである。しかし，それは一方的な見方であって，そこに住む人たちの生活は“団地の顔”よりも，もっと豊かで複雑なのである。

2DKは庶民との“対話”を忘れ，現代の“消費革命”にソッポを向きながら“標準化”という固定した住宅

設計が生んだ奇形児だった，といえるだろう。(中略)

〈きょうの首都圏〉[オレは団地専門のアキス　防犯の反面教師]　(42.9.16)
　ベランダ…簡単さ　怪しまれても会釈でパス
　カーテンや干し物のない窓　便所やフロの窓もいい入口　防犯ベルや隣人の和に弱い

[団地は“奇形社会”　団地族の意識調査から]　(42.9.20)
　このほど国立社会教育研修所（二宮徳馬所長）が発表した団地族の意識調査でも「団地はさまざまの集団病理現象を起こした奇形社会である」というショッキングな結論が出た。
　“仮住まい”で乏しい連帯感

[マイホーム捜しはバスに乗って　よく見くらべて買う]　(42.9.30)
　「次は○○団地でございまーす。この団地の特徴は，頭金60万円で家が買えること，全戸水洗トイレになっていることでございまーす。私鉄の急行も停車し，成田空港の実現も間近いので，絶対お買得の成長株でございまーす」―バスの中で，住宅会社の案内係が声を張りあげる。お客さんたちは，どっさりもらった各分譲会社の案内書を見くらべて「値段は？　間取りは？　交通は？」と研究する，その表情は真剣そのもの。
　近ごろ東京では“分譲住宅見学バス”が大繁盛。都心から三多摩，神奈川，千葉，埼玉の4コースに分けてバスが出るが，毎回乗りきれないくらいのにぎわいだ。
　(中略) 定員60人の座席は補助イスまで満員の盛況。神奈川コースなどは，もう1台増発したほど。いかに住宅さがしの人が多いかがよくわかる。もっとも，一日中，空気のいい郊外を乗りまわすのだから，客の中にはおカシと水筒持参の子供づれもいる。ちょっとしたピクニック気分。(中略)

[手が出ないネ　2DKは1.4倍　高い団地，金町・日ノ出]　(42.10.12)
　高い家賃でサラリーマンには手の届かない団地と話題になった東京葛飾区金町の金町駅前団地と足立区日ノ出町，日ノ出団地の入居者募集結果が11日，日本住宅公団でまとまったが2DKの最低1.4倍をはじめ，これまでの平均倍率の50分の1という記録破りの不振さ。(中略)

〈きょうの首都圏〉[駅前空洞化現象]　(42.10.14)
　「売る土地はない」　値上がり待ち，草ぼうぼう

〈きょうの首都圏〉[開発利益]　(42.10.21)
　「もうけて，なぜ悪い」　上昇分吸いとる地主，不動産屋

〈きょうの首都圏〉[夢破れた“太陽の丘”]　(42.10.28)
　「あゝ，水がほしい」　“土地さえあれば…”が甘過ぎた　公的投資ゼロで宅地造成
　埼玉県比企郡吉見村の分譲団地群。通称“比企ネオポリス”。首都50キロ圏の線上にある。史跡“吉見の百穴”の東に広がる，なだらかな丘陵地帯。秩父連峰のふところに抱かれ，空気は甘く，太陽はさんさんと降りそそぐ。だが，水は少なく，道路は悪く，東京への通勤は時間がかかりすぎる。そのせいか，待望のマイホームをやっと造ったものの，何人かがこの土地を去っていった。「私たちは不動産業者にだまされたんですよ」とニガイ言葉を残して…。
　“太陽の丘”とは名ばかりである。水不足のために住居者はまばら。宅地は“ススキ天国”になり果てている。

［もったいない！ガラあき団地　墨田の都営住宅］（42.11.5）

都のいい分 「失格が多かった」

せんたくものやふとんで花ざかりの都営団地のなかに，ぽっかり空家ばかりの建物―墨田区文花の都営文花団地の話だが「住宅難時代にもったいない」と近所の人たちは首をかしげる。

〈あすの首都圏〉都市の構図 ［プロパン，近郊を制す 「機雷原です」と消防陣］（42.11.11）

（中略）プロパンガスは，住宅の遠隔化によって伸悩む都市ガスをよそにめざましい勢いで普及し，全需要戸数の60％以上を占めてしまうであろう。現に，新興住宅地が“雨後のタケノコ”のように誕生している神奈川，埼玉，千葉の各県では，すでに全需要戸数の50～60％がボンベを運べばその日から“火”がつけられる簡便なプロパンガスに占められている。

しかも，これら3県はもとより茨城，栃木…と奥手に宅地化の波が押寄せ，いぜん，ハイピッチでベッドタウン化が進んでいる。（中略）農地の宅地化，工場進出などで田畑を失った組合員をかかえる農協にとっても，ガス事業は魅力ある商売の1つである。都市近郊の農協のほとんどが，ガス・スタンドをかかえ，かつては種子や肥料，飼料など生産に直結するものを売っていた手で，消費財を売りまくっている。（中略）口を開けば“ゆたかな社会”“明るい家庭”を唱えるが，無秩序に建ち並んだ小住宅の1戸，1戸にボンベが置かれ，貧弱な地元消防陣にとっては手に負えぬ機雷原的な危険性さえはらんでいる。

［団地のバスふやせぬ］（42.12.16）

建てっ放しに警視庁が苦言 「まず道と広場を」 三多摩 安全運行できない

団地と私鉄，国鉄の各駅を結ぶ道路や，ターミナル広場がほとんど未整備なのは，大都市ベッドタウン，各団地の共通の悩みで，各地に多くの波紋を呼びそうである。

〈あすの首都圏〉都市の構図 ［ニュータウンに“伏兵” 手放さぬ地主…穴が点々］（43.3.30）

いま，ニュータウンの中心は3つ。田園都市線のたまプラーザ，青葉台，長津田の各駅である。これらの駅から放射状に道路がのび，丘陵をけずったところに新築したばかりの住宅や中層アパートが立ち並んでいる。目下建築中の住宅もあるし，高層ビルもある。斜面にびっしり建つ公団アパートを視界から除けば，戦前の麹町や松濤などの屋敷町が再現しているといってもいい。テラスに赤いバラがほほえみ，アルミサッシの窓からは白いレースのカーテン越しにショパンのポロネーズが聞こえる。「ここに新しい生活（コミュニティ）始まる」―東急のキャッチフレーズが素直にうなずけるニュータウンの1こまである。

だが，たとえばニュータウンの中心であるはずのかんじんの駅前広場（たまプラーザ）のすぐ前は，荒廃しきった空地。むき出しの赤土が風に舞っては空を染め，雨に打たれては泥流となって下水道に流れ落ちるといった具合。全く区画整理されていない。そこここに，こうした未整理地区が点在していて，ニュータウンの顔を醜くさせているのである。

〈あすの首都圏〉都市の構図 ［ドロンコ新興住宅地］（43.4.27）

身のタケもある大きなゲタ箱に並んだ長ぐつの列。ズングリ黒い男用のもの。赤，黄，白，ブルー，色とりどりでかわいげな女性用のもの。いろんなのが並んでいる。どれもこれもドロだらけだ。

松戸―津田沼間，かつての軍用鉄道あとを走る新京成電鉄。（中略）津田沼寄り，船橋市内の二和向台（ふたわむこうだい）駅のこのゲタ箱は，二和町の町会がつくったという。住民がひねり出した“生活の知恵”なのだ。

降っても晴れても，道がぬかっているときは，ここまで長ぐつをはいてくる。片手に短ぐつやハイヒールのはいった紙袋をさげてである。

（中略）いっこうに道路は良くならない。ここは決して町はずれの“山の中”でも“田んぼの中”でもない。東京へ1時間半たらずの距離にある町なのだが…。

（中略）“スプロール化”が進む千葉県幕張町では，中学生が悪路に自転車のハンドルをとられてころび，トラックにひかれて死んだ。悪路は首都圏人の格好をわるくさせているばかりか，生命の安全さえおびやかしつつあるのだ。

〈話題の広場〉［不正相つぐ団地自治会］（43.7.29）

上意下達 住民の無関心がカベ

東京には“団地”と呼ばれる住宅の集まりが公団，都営あわせて約240ヵ所もある。…1000戸以上の大きな団地になると，管理人とは別に「自治会」を組織して，住民の親ぼくをはかるとともに，地域社会への“パイプ”の役目を果たしている。パイプがよく通じるときは住民の共感を呼ぶが，住民から遊離して，自治会内部で政争にあけくれたり，会計管理があやふやだとパイプはつまってしまう。（中略）

［遠い高い狭い　不評の新興公団住宅］（43.8.17 夕刊）

「建てさえすれば…」の時代は過ぎた　上尾団地，3DKも再募集

住宅公団が建てれば，だまっていても10倍，20倍の競争率―という時代はすぎた。（中略）「遠い，高い，せまい」では住宅に悩む人たちも飛びついてこなくなったといえそうだ。

［物価問題より団地の陳情　ひばりヶ丘の対話集会］（43.8.22）

「幼稚園を，プールを」美濃部さん，拍子抜け

「消費生活安定のために」とのテーマを掲げた第5回都民と都政を結ぶ集いが21日午後2時半から田無，保谷，久留米の2市1町にまたがるひばりヶ丘団地北集会所広場で開かれた。（中略）テーマの物価問題に触れたのはごくわずかで「団地に幼稚園を，プールを…」など“団地エゴイズム”まる出しの陳情がほとんど。ついに美濃部知事も「きょうは都政全般についての，大きな問題を話合いにきたのだが…」と聴衆をたしなめる1コマもあった。

〈あなたの首都圏　わたしの首都圏〉［地価21％上昇はショックだ］（43.8.24）

道遠しマイホーム　ドーナツ圏急騰　暗い見通し「まだ上がる」

“マイホーム”の夢は遠のくばかり―建設省がこのほど発表した調査によると，東京周辺の宅地はウナギ登り。（中略）なかでも都心から26―30キロ圏がもっとも高くなっているが，とくに田園都市，西武新宿線など沿線開発が進んでいるところで30％以上も大幅に値上がりしているのが目立つ。

40キロ圏といえば，都心までの通勤時間が1時間半ないし2時間くらいのところ。それにもかかわらず，近いところの土地にもはや手が届かないとすれば，庶民はこうした遠距離に定着せざるをえない。

〈あなたの首都圏　わたしの首都圏〉［山林や田んぼのまま　値上がり待つ地主］（43.8.24）

ここ数年，東京中心に地価の上昇が激しいのは30キロ圏だ。（中略）都心までほぼ1時間，通勤にはまずまずのところが激しく値上がりしていく。所得，一般物価の上昇率をオーバーして，年20―30％も上がる土地価格。庶民のマイホームの夢はざ折するか，あるいは通勤1時間半，40キロ圏へと遠のいていく。

［団地はできたが道がない　千葉市花見川］（43.8.29 夕刊）

駅へのバス道路　隣接の市がソッポ

千葉市北部にできた花見川団地で，入居者も決まり「8月入居」の予定だったのに住民を運ぶ足がなく，入

居はしばらくお預けとなった。このチグハグなお役所仕事に入居予定者は「当選の喜びもさめてしまった」とプンプン。

（中略）建物の方が労務者不足で遅れたうえに，団地からもよりの京成八千代台駅までの道路がさっぱり。9月はじめには建物や諸設備は整う見通しがついたものの，肝心の通勤の足が確保できぬとあって，入居をさらに延ばさざるをえなくなった。

〈あなたの首都圏　わたしの首都圏〉［1日8軒家が建つ　無秩序にふくれる越谷市］（43.8.31）

この8年間に人口が2倍以上にふくれ上がった町がある。かつての農村，いまや10万都市の埼玉県越谷市である。（中略）いまも3時間に1軒の割りで，ぞくぞく家が新築されていっているというからすごい。都心から25キロのところで，まさにフクラシ粉でとめどなく膨張中のドーナツの輪。

〈話題の広場〉［公営スーパーの建設　四分五裂のマンモス桐ヶ丘団地］（43.9.23）

「安くて結構」かと思ったら一賛否の請願，8つも　思惑からむ10の自治会

［トイレ工事に手抜き？　荻窪団地の1戸　10年も汚物の上に］（43.10.4）

杉並区西田町1の日本住宅公団荻窪団地（26むね，800世帯）で手抜き工事のため水洗トイレと下水道本管を結ぶパイプが埋設されていなかったため，床下が便槽（そう）のようになっていたことが，入居から10年たって初めてわかった。同団地自治会は「工事も管理もズサン」と憤慨，公団側にトイレの総点検を申入れた。

［新興住宅地を抜打ち検査　悪質業者を摘発］（43.11.30 夕刊）

“マイホームの夢”を食いものにする悪質な住宅，宅地業者を摘発しようと，30日朝から関東一円で一斉抜打ち検査が行なわれた。実施したのは東京，神奈川，千葉，埼玉など1都7県。建設省と各都県の係員が“住宅Gメン”となり，東京から周辺県へと広がる新興住宅地に飛んで目を光らせた。

（中略）「駅から10分」が町はずれの30分もかかるところにあったり，商店街といっても雑貨屋が1軒ある程度といった悪質な例もあり係官たちもあきれ顔。（浦和）

〈ちびっ子パワー　その8〉［団地育ち］（44.1.12）

小犬が飼えたらなー　パパ，家つくってよ

マーボーこと雅美は東京の団地っ子1号である。誕生日は31年11月14日。

マーボーが団地っ子を意識したのは小学校3年生ごろ。お友だちのうちに遊びにいったら，庭があって，犬が3匹もいた。（中略）

〈団地とわたし〉（44.1.11）

「空気と緑が自慢」　東京・ひばりヶ丘団地　藤岡寛子（33）

「不便さをかこつ」　千葉市あやめ台団地　　滝沢マツ子（29）

〈団地とわたし〉（44.1.18）

「買物が楽です」　浦和市田島，田島団地　田村三恵子（36）

「子供の天国」　　横浜市中区，小港団地　本田保子（35）

〈団地とわたし〉（44.1.25）

「内職も公然と」　習志野市袖ヶ浦団地　　永瀬俊子（36）

「武蔵野の面影」 国分寺市けやき台団地　桶口千鶴子（42）

〈団地とわたし〉（44.2.1）
「特筆ものの婦人学級」 横浜市明神台団地　加藤美和子（35）
「ママさんバレー優勝」 春日部市武里団地　和田八重子（32）

〈団地とわたし〉（44.2.8）
「にじみ出る“人間愛”」 八王子市泉町，泉町南団地　長岡八千代（38）
「マイホームへの夢も」 松戸市常盤平団地　白水清子（37）

〈団地とわたし〉（44.2.15）
「“戸塚のベニス”に泣いたが…」 横浜市戸塚区上倉田町，上倉田団地　山口和恵（37）
「不満はあるが多い便利さ」　埼玉県上尾市原市，原市団地　藤原昭子（26）

〈団地とわたし〉（44.2.22）
「日光街道の騒音が悩みだが…」 東京足立区竹の塚町，竹の塚第一団地　藤井妙子（30）
「“乗りなよ”と魚屋さんの車」　柏市豊四季団地　月野由起子（40）

〈団地とわたし〉（44.3.1）
「通勤も30分以内，快適な環境」　横浜市港北区元石川町たまプラーザ団地　斎藤広江（27）
「農地を借り，素人農業を楽しむ」　春日部市大枝，武里団地　小島真知子（26）

〈団地とわたし〉（44.3.8）
「毎日を楽しく」 国立市富士見台団地　渡辺澄子（33）
「環境は市内一」 千葉市小倉台団地　鳥海静子（28）

〈団地とわたし〉（44.3.15）
「明るいムード」 所沢市上新井，こぶし団地　川辺富貴子（27）
「健康的な行楽」 横浜市戸塚区，公田団地　木村喜世子（33）

〈団地とわたし〉（44.3.20）
「住人の気持次第」 船橋市習志野台団地　市田喜久子（30）
「人間サイズ自戒」 村山市美住町久米川公団　加瀬照代（30）

〈団地とわたし〉（44.3.29）
「快適，この10年」　所沢市緑町，新所沢団地　柿沼玉枝
「海の見える窓」　横浜市金沢区，金沢文庫公団住宅　三宅良子

［おそまつ！　都営団地　北区堀船］（44.3.25）
電気こない差込み　トイレも使えない　動かぬ住宅局　入居者，怒りの請願
深刻な住宅不足から，都営住宅はいまや空前の競争倍率。ところが，夢がかなってやっと入居したマイホームが不良工事だらけという団地が住民の請願から明るみに出た。

[また「おそまつ」団地　公社分譲の「板橋向原」] (44.4.2)

トイレ水もれ，フロ逆流，壁キ裂…　修理も渋り，手抜き

高い借金までしてやっとはいった3LDKの団地住まい。“狭いながらも楽しいわが家”と人心地がついたのもつかの間，入居早々から目につく建てつけの悪さ。玄関のカギはこわれる，敷居も下がる…これではマイホームを得た喜びもあせてしまう―

[首都圏ドーナツ急膨張　おうちがだんだん遠くなる] (44.4.3)

都心へ毎朝115万人　働きバチ 通勤戦争にしごかれ

東京の人口の流れは都心から周辺区へ，さらに三多摩地区から近県へと年ごとに輪を広げている。

地価，家賃の高騰に追われ，都市公害にいやけがさしての脱出である。といっても，都心の職場を見捨てるわけにはいかない。

政府が住宅政策の1つとして打出している“職住近接”の方針は完全に空念仏に終わり，現実は“職住遠離”に拍車がかかっている。このため通勤時間が1時間半―2時間という“通勤旅行”型もザラ。しかも，ラッシュにもまれるだけでなく，ちょっとした交通機関の事故やストのたびにイライラの繰返し。

一方，都心からの脱出組を受入れる郊外市町村や隣接県の悩みはますます深刻。東京・町田市のように，1年に1校ずつ小・中校を建てても追いつかず，フーフーいっているところが目白押し。自治体の財源は校舎に食われ，道路はデコボコ，下水道はさっぱり，と“土地っ子”たちからは激しい突上げにあっている。

通勤でしごかれ，生活環境は悪化―こうして首都圏残酷物語は確実にエスカレートしていく。

[マボロシの駅　だまされた土地　その周辺] (44.4.19)

1年後の甘言につい　鉄道側計画なし　バス停から30分

(中略) 西武新宿線沿いでは「新駅近く建設」の“おいしい話”をタネに土地が売買されていた。

マイホームも結構。しかし，うまい話にはご用心―“マボロシの駅”周辺をたずねてつくづくそう思ったが，このような，おいしい話にひっかかった届け出は東京都だけで222件，神奈川県がざっと100件，そして埼玉県で57件もあった。どれも，これも“だまされた”“だまさない”の水かけ論で，相談を受ける都や県の建築指導係は「買う前に業者がいっていることが本当なのか，どうかよく調べてからにしてほしい」といましめている。

[レジャー農園　土が欲しい　団地族に大モテ] (44.4.24)

休日は一家そろって　年間数千円，地主さんも思わぬ“収入”

家族ぐるみで土いじりができ，チョッピリ新鮮な味覚も楽しめるレジャー農園が，団地やアパート住まいの“庭なし族”に大モテ。息づまるような都市生活から逃避しようという都会人ならだれでも持っている欲望を背景に生まれたこの“新商売”は，広がる団地やアパートの波に乗ってさらに流行しそうだ。

このレジャー農園は数年前畑地など残り少なくなった東京世田谷，練馬区などの農家が副業にはじめたのが最初。

[公団花見川　団地住民が猛反対] (44.5.18)

「入居募集…とんでもない」「約束のバス走らぬ」

【千葉】日本住宅公団が千葉市の西北部に建設した花見川団地で「入居して半年もたつのに，公団が約束したバスが走らない。道路もできない。15,000人の団地に医師はたった3人。こんなところへ新しい入居者がきても生活できない」と住民が追加募集反対の署名運動を始めた。(中略) 地価の安い不便な郊外地に建設する団地では，今後も同様のケースが予想されるだけに，この騒動の成行きが注目されている。

[新商売“分譲バス”繁盛記]（44.5.27）

宅地巡回の相談役　トラブルあれば全責任

都内や東京近郊の分譲地，住宅，マンションなどを巡回する“分譲バス”が人気上昇中だ。運行日には“マイホーム探訪族”が押しかけ，観光バス顔負けのにぎわい。途中，バスの中では法律，税金の話まで織込んだ“家づくり講座”も開かれ，悪質不動産業者による被害の予防にもひと役買っている。「分譲」といえば，これまで売手側（不動産業者）の一方的な“押しつけ”サービスからトラブルも多かったが，このバスによる見学方式は“買手側に選択の自由”を保証するものとして，利用者からなかなか好評である。

[住宅難どこ吹く風　公団の申込み激減]（44.6.1）

「えり好み」が原因

公団住宅の申込者が減ってきている。（中略）新規団地や空家の募集で，競争率が低下してきている。とはいっても，場所によってモーレツな倍率だが，この住宅難時代に不思議な話。公団も「新しい団地はどうしても遠く，家賃が高くなるので，敬遠されるのでしょうか」と首をかしげている。

（中略）質的な変化がきていることは確かなようだ。

[お医者不足　ドーナツ圏　人口急増で“へき地”に]（44.6.29）

横浜は大都市で最低

“へき地”の医師不足が叫ばれて久しいが，ここ数年人口が急増している首都圏の各県でも最近，医師不足が目立ってきた。（中略）

[容赦なし“緑の丘陵”つぶす　多摩ニュータウン]（44.8.25）

“自然”奪う三者バラバラ造成

“緑の丘陵団地”というキャッチ・フレーズで東京都，日本住宅公団，東京都住宅供給公社が東京の多摩丘陵に建設中の多摩ニュータウンは，スタート当時，自然の地形や山林を生かした住宅都市になるはずだった。ところが，宅地造成が進んだいま，松や雑木などの緑は容赦なくブルドーザーに押倒され，谷は埋められて，まるで“サバク”のようになってしまった。住宅づくりの大半を受持つ住宅公団が途中で地盤の悪さと予算難を理由に計画変更したためで，公社も今月はじめ公団のやり方にならうことを決め，また最後までがんばっていた東京都も，これから緑地面積をいくらか減らしそうな雲行き。（中略）

[わがふるさと　団地]（44.9.12）

ここで成人した愛着　住みついて13年・柿もなった

自分たちの生活の場として　いつまでも“ふるさと”守ろう

（中略）コンクリートの無味乾燥な住宅というイメージをもたれながらも，その13年間を団地ですごした子供たちにとってはここはまぎれもない“故郷”である。当然，故郷への愛着も生まれる。

[¥10,000,000住宅…暮らしてみたら]（44.9.26）

通学，買物は不便だが「まあまあ満足」

学校は，道路は，公園は　追いつかぬ“住宅行政”

クーラー付きのモダンな家。庭には白樺，ソテツ，松などが植込まれ，枯山水（かれさんすい）流の石池もある。「これが夢にまで見たマイホームです」―若いママの顔がほころびた。（中略）横浜市金沢区の金沢文庫分譲地。わずか3ヵ月前，1千万円近いわが家を手に入れようと血走っていた目は，喜びにあふれていた。

横浜に限らず，神奈川県下では鎌倉，逗子，久里浜，横須賀と，どこでも山がどんどん住宅地に変わってい

る。(中略)

[東京を診断する　ロブソン博士第2次報告]　(44.10.1)

多摩ニュータウンは間違い　住宅団地　新たな難問のもと

(中略) 理由は「ニュータウンの基本は，職場，住宅，各種サービス，レクリエーション施設を完備した近代都市そのものであるべきなのに，多摩をふくめた日本のニュータウン計画は，大規模な住宅団地にすぎない。これでは“マンモス団地都市”から母都市への通勤交通を困難にするなど，厄介な都市問題を新たに生み出すようなもの」という。

さらに公営住宅一般の改善について「バルコニーに洗たく物が陳列されている日本の団地はエレガントとはいえない」と皮肉まじりに批判，70年代の生活水準向上を考えれば電気洗たく機と乾燥室を完備した洗たく場の設置，またセントラル・ヒーティング，乳母車置場，保育所などを完備すべきだとしている。

[「通勤至便」も魅力なし]　(44.10.1)

高家賃・公害 借り手ない公団大島団地

[マンション郊外へ　中堅層をねらって]　(44.10.15)

百貨店も仲介 “1時間地帯”に続々

東京周辺では，1日に1むねの割りで完成しているといわれるほどのマンション・ブーム。都心だけでなく，大宮，川越，八王子など“1時間マンション”もつぎつぎ建設中。10月はじめからデパートが紹介業務に乗出したり，中古マンションの売買をめざす会社が設立されるなど，ブームの余波は広がっている。

[“バイパス公害”に泣く　草加松原団地D地区]　(44.10.21)

騒音，排気ガス，事故　毎日4万台突っ走る

マンモス団地・埼玉県草加市の日本住宅公団松原団地で“バイパス公害”にたまりかねて，せっかくのマイホームから逃げ出す人があいついでいる。団地ができたあと，首都圏を至近距離で結ぶためにつくられたバイパスが，逆に交通公害を生んでいるためだ。

[“土地と家”で市民大学　無秩序な市街化進む近郊・小平]　(44.10.21)

街造り理解深めるため

葉がむしばまれるように，無秩序に市街化されてゆく近郊都市－スプロール現象は首都圏都市の共通の悩みだが，街造りにはまず市民の啓発からと東京・小平市で16日から「土地・住宅問題市民大学」が開かれている。(中略)

[45%が貸家を経営　建設省調査 東京近郊の農家]　(44.10.21)

“東京農家”の45%は貸家経営者—建設省が20日まとめた「東京近郊農家の住宅経営について」の意識調査で，こんな結果が出た。

調査の対象は東京，神奈川，千葉3都県の16市町村の農協から抽出した855農家。(中略)

[マイホーム暮らしてみれば　野比団地を訪ねて]　(44.11.28)

住み心地，まずは合格　鉄筋でも木造の感触　採光文句なし

(中略) 横須賀市の郊外，野比のあたりには，三浦半島独特の風景が，まだ色濃く残っている。だが，南向きの比較的ゆるやかな斜面はいたるところにヒナ段式の宅地に造成され，延々とうち続くコンクリートの白い

土止め壁が緑の山に映えてまぶしい。野比字山田の一帯では，いま，土地会社とプレハブ建築会社がタイアップして，土地付きプレハブ分譲住宅を売出し中である。

[団地の井戸とめられそう　八王子旭ヶ丘　電気料，4ヵ月も不払い]（44.11.29）

「会社負担のはず」住民 「そんな契約ない」宅造会社

東京八王子市打越町の旭ヶ丘団地で，団地内の電動式給水ポンプ（井戸）の電気料金が4ヵ月間も不払いだったことから，東京電力多摩支店八王子営業所が送電ストップを通告，団地住民は「給水をとめられては生活できない。人権問題だ」と，28日午後，市や消防署，保健所に“SOS”を申入れた。（中略）スプロール化の波に乗って先走る宅地造成をめぐり，新しいひずみがまた1つむき出しになった。

[土地政策不在　人の住めぬ地価　南浦和 駅前は畑や林ばかり]（44.12.2）

【浦和】東京駅まで直通40分。3年後には東京外郭環状線（武蔵野線）と交差する京浜東北線南浦和駅は，首都30キロ圏でも将来の発展が約束される指折りの恵まれた地域。ところが新駅開設以来，8年もたっているのに，駅周辺はいまだに畑や林ばかり。夜は暴漢まで出没する。3.3平方メートル当たり100万とも150万円ともいう異常な土地相場。それに売り渋る地主たち，区画整理事業に後手をとったお役所―土地政策の貧困が生んだ典型的なスプロール地帯だ。サラリーマンは，やむなく駅から遠く離れた新興住宅地に住居を構え，せっせと通勤している。

（中略）事実，駅の近くはガラガラ。離れるに従って家が密集するという奇妙さ。

[郊外マンション　ぞくぞく建つが…]（45.1.6）

それっ火事だ　ハシゴ車がない　危険が同居 お粗末な対策

学校，保育園も足らぬ 地元は迷惑顔

「せせっこましい東京には住みあきた」のかどうか，昨今の首都圏は都心から流れ出した人波でベッド・タウンはふくれるばかり。（中略）しかし，地元の市や町にはお荷物。第一，消防体制1つ例にとってもハシゴ車があるわけではなし，学校，保育園…みんな“ないないずくし”。本格的郊外マンション時代の幕あけかもしれないが，都市計画の青写真はさっぱり。（中略）

“住宅産業のスター”としてドーナツ圏に上陸したマンション・ブームも，ひと皮むけば，どん欲な民間投資と貧弱な公共投資のアンバランスから危険を増大させている，といえないことはないし，国もこのへんで早急に抜本的な対策を講ずる必要があろう。

[団地族に大もて　秩父の墓地公園]（45.3.26）

観光コースだし賃貸料は安いし

“観光の秩父”のイメージを大いに売込もうという抜け目なさで，お客の9割が東京のドーナツ圏の団地族だという。このため市では，秩父駅との間に毎日，無料のマイクロバスを運行，田無，清瀬，久留米，練馬など人口急増のベッド・タウンには特に大型バスをさし向けて，墓地見学のあとは長瀞などの名所に案内するという至れり尽くせりのサービスぶり。

[小・中学生にも遊び場を　地元ぐるみの運動に]（45.3.31）

悩みは同じ…団地が結束

砂場にブランコといった幼児向きの児童遊園地からはみ出した団地の子供たち―。いわゆる“中ども”に遊び場をという声が入居6，7年以上の各団地から強く起きている。（中略）

[交通不便　きらわれた団地]（45.5.8）

中学建てたが生徒54人　千葉・我孫子町湖北台団地

【柏】首都圏の学校といえば，すぐ連想されるのは“マンモス校舎”“すし詰め学級”。ところが，人口が急増し，7月には市になろうという千葉県東葛飾郡我孫子町に，全校生徒わずか54人という中学校がある。

[うんざり“真夏”の日曜　断水マンモス団地]（45.6.8）

9時間，バケツかけ回る　ひばりが丘

（中略）東京のひばりが丘団地では水の使い過ぎ？から断水，てんやわんやの大騒ぎが持上がった。

[高層アパートに分校―公団・横浜 初の試み―]（45.6.2）

過密地のやりくり　住居も教室も同じ屋根の下　悩みは運動場がない

【横浜】日本住宅公団は横浜市と協力，横浜市磯子区磯子の国鉄根岸線磯子駅前に建設中の高層アパートに，小学校教室を作る。この“住宅とひとつ屋根の下の小学校”は，全国初のケースだが，ますます過密化する都市の市街地開発計画に乗って，この形式の小学校が各地で建てられるとみられ，磯子の“住学一体”の試みに，大きな関心が寄せられている。

“住学一体”の学校が実現すると，アパートに住む子供たちは，家から教室へ直行できるので，交通事故の心配もなく，雨や風の悪天候も平気。便利な小学校生活を送ることができる。

しかし，悩みは運動場がないこと。いまのところ，アパートの屋上を使うか，昼間車が出払った併設駐車場を使うか，それとも，アパート周辺の比較的交通量の少ない道路を時間を区切ってしゃ断し，体操などできるようにするか―の3つの点を検討している。

[高い料金の深夜バス反対　鶴川団地]（45.7.28）

乗客たった8人　自治会，マイカー動員

「駅を降りてもバスはなく，タクシー乗場は長い列」という郊外団地の深夜帰宅者の足を確保するため，臨時の深夜バスが27日全国で初めて東京町田市の小田急線鶴川駅-鶴川団地間（3.3キロ）に運行された。

[もう手が出ない　マンション建設 都心から郊外へ]（45.12.8）

高い地価，厄介な日照権

職住近接を売りものにしてきたマンションに，最近“脱都心現象”が目立ってきた。都心部の地価の上昇と，日照権問題などで住民パワーの圧力が強まってきたためで，これからのマンションは郊外進出時代を迎えるのではないかというのが業界の一致した見方だ。

[団地安売り「待った」 公団側が「小売り圧迫」と　奈良]（46.1.28）

【奈良】（中略）産地直送の新鮮な野菜を団地の住民に少しでも安く提供しよう，と奈良県経済農業協同組合連合会（竹村奈良一会長）が奈良県などのバックアップで昨年末から始めた団地の“青空市場”に日本住宅公団から27日“待った”がかかった。「既存の小売業者を圧迫する恐れがある」というのが公団のいい分（中略）

[すごいマンション攻勢　多摩武蔵野]（46.2.17）

トラブル次々に　日照権，電波障害，騒音

自治体の同意を　市長会 建築基準法改正望む

[車のある人，ない人…団地の対立　駐車場づくりをめぐって]（46.4.25）

よその車締出しで妥協　本当の解決策はいつ

公団交渉も消極的　むずかしい住民運動

マイカー族が激増する団地で。 車のある人　芝生を多少けずっても駐車場を作るべし。

車のない人　芝生の緑は団地の生命。マイカー族の犠牲にはなれない。

もみにもんだあげくの結論。 夜，パトロールして団地外の人の車をシャット・アウトしよう。

[“欠陥団地”直してヨ　主婦パワー，公団へ]（46.9.14）

雨はもる，壁は落ちる…　補修せねば代金の不払いも

入居者たちは「住宅を引渡すときは完全商品といっていながら，雨もりはする，ひさしはくずれる，壁は落ちるでは，悪質不動産屋顔負けの詐欺も同然。手抜き工事ではないのか。公団が早急に建替えるか，全面補修しなければ，今後，分譲代金は払わない」「やっと手に入れたマイホームでカサをささなければならないのですよ」と口々に実情を訴えた。

[埼玉の公住わし宮団地　空家多く，常時受付]（46.9.15）

“都心へ1時間半”でシリごみ

（中略）いくら住宅難といっても遠すぎるというのが人気薄の最大原因のようだが，常時受付けは昨年春の千葉県我孫子市の湖北台団地についで関東地方で二度目。

[4年越しで「バス通せ」運動　埼玉県上尾の県営団地]（46.10.5）

団地にバスを―と埼玉県上尾市の県営シラコバト団地（中川吉弘自治会長，850世帯）では4年越しの運動を展開している。

（中略）周囲は新興住宅地で，居住者は東京，浦和などへの通勤サラリーマンがほとんど。

しかし，国鉄高崎線上尾駅と桶川駅のほぼ中間で，上尾駅まで3.5キロ，桶川駅まで2キロもあるのに最寄りのバス停は団地西方の東武バス町屋停留所まで1キロもある不便さ。（中略）

[通勤と環境がピタリ　西武　湘南鷹取台分譲地]（46.10.28）

（中略）1時間通勤圏内に残された最後のライフ・ゾーンといわれているのが「湘南鷹取台分譲地」。

分譲地の眼下には湘南の海が広がり，四季によって変化する海の色を楽しめるし，付近の海岸線には観音崎灯台や油壺，猿島，金沢八景など，釣りや海水浴，潮干狩りなど，レジャーの拠点も多い。

緑地と公共用地が45%を占める環境の中で，機能的な近代生活を送ることのできる高級住宅街であり，モダンなデザインの高級住宅がならんでいる。（中略）将来，人口が1万人になるこのニュータウンは“山の手高級住宅街”という名にふさわしい。

[思うように子供うめない団地]（46.10.29）

「狭くて3人目ムリ」　お寒い住宅行政に嘆き　厚生省調査

[深刻…団地の車と駐車場]（46.11.18）

高まる批判，名案なし　救急車出動にも支障　マイカー有無で食違い

急速にふえる自動車に駐車場が追いつかない。とりわけ団地では深刻な問題になっている。

[バス満員で乗れぬ　“足”考えぬ新団地にクレーム　市川市]（46.12.14）

“素通り団地族”で地元が迷惑するのはまっぴら―。日本住宅公団が千葉県松戸市に建てる「梨香台団地」にお隣の市川市は「足の便を考えないムチャな計画」とクレームをつけた。（中略）バスは始発から満員になってしまい，市川市民は積残されてしまうおそれが多分にあるので同市は「隣の迷惑を考えない団地づくりには協力できない」と強い態度をとっている。

[郊外マンション 住み心地は]（47.4.11）

“一戸建て断念”組が多い　仮住まいとして満足

大成建設が手がけている神奈川県川崎市向ヶ丘の「宮前平グリーンハイツ」は完成すれば1,005戸の大規模な郊外団地。さきごろ同社が第1期入居者を対象に行なった入居者調査結果をみると，郊外マンション入居者の平均的傾向がうかがわれる。

入居するに当たっては構造（間取り，部屋数，階数など）を重視した人が多く，ついで環境（自然環境，交通の便など），価格（価格，支払い条件，管理費）など。

[団地の消防 これじゃ困る　8割，ハシゴ車使えず]（47.5.2）

東京 狭い道や立木がじゃまで　公団などへ改善申入れ 東京消防庁

住宅の高層化が進むなかで，問題なのは遅れをとった消防対策。都内にある公団，公営の団地のうち，ハシゴ車のハシゴをかけられない団地が82%もあり，うち19団地は進入さえ不可能なことが，東京消防庁の実態調査で明らかになった。道路が狭すぎてハシゴ車が通れなかったり，立木や電線がじゃまになってハシゴを伸ばせないなどが原因という。

[団地族の意識 公団がアンケート調査　近代的で進歩的 でも個性がない]（47.6.1）

「いずれ脱出」67%も　“連帯感”は意外に強い

（中略）ほとんどの居住者が団地生活に一応満足しながらも「公団住宅は持家へ移る中間段階の家」として，住民は公団からの脱出を考えていることなどもわかった。

この調査は，東京から30キロ圏の公団入居者と入居希望者500人ずつを選び，個人面接で32項目についてアンケートした。

[水が通らぬ“水抜き穴”　つくし野団地で手抜き工事]（47.6.1）

“第2の田園調布”のキャッチフレーズで東急不動産が売出している高級分譲地「つくし野団地」（東京町田市つくし野）で，宅地の擁壁工事に手抜きがあることが購入者の訴えでわかり「大手不動産も信用できないのか」と非難されている。（中略）

[欠陥団地まだあった　“札つき”の高幡台]（47.6.12）

雨もり，ダニ騒ぎ 全戸の半数も

日本住宅公団の湖北台団地（千葉県我孫子市）でベランダが落下した事故をきっかけに，同公団は全国の団地でベランダ総点検を進めているが，高幡台団地（東京日野市程久保）の賃貸住宅1,188戸のうち116戸のベランダに欠陥があることを発見，このほど急いで仮補修を始めた。

（中略）最近団地自治会準備会が集計したアンケートによると，雨もり，ダニの発生など，全戸数の約半分が欠陥を訴えている“札つき団地”。（中略）

[保育園を“カゴの鳥”に　ベランダ落下物に防護ネット　高島平団地]（47.6.13）

たとえ鉛筆1本でも，地上14階から落ちてくれば，加速度で当たった人は大けがをする。それが，鉛筆どころかテレビ・アンテナ，ビールビン，物干しザオ，スリッパなど，あらゆる家庭用品が降りそそぎ，危険きわまりない。場所は板橋区高島平の公団高島平団地—14階建てビルの1階に同居している3つの保育園。保母さんたちは「いつ大事故になるかわからない」と天を仰いでノイローゼ気味。うっかり夫人の不注意や子供のイタズラらしいが，板橋区は思い悩んだあげく，園庭に防護ネットを張ることになり，補正予算に800万円を計上した。“当たらぬ先の網”というわけだが，3つの保育園は文字どおり“鳥かご”になる。

[団地駐車はお金とります　入居者と連携して自衛　名古屋・鍋屋上野住宅の場合]（47.6.21）

（中略）いま，団地は駐車場が悩み。これはその対策の先手を打ったもので自衛策の1つとして注目されよう。駐車契約車には駐車票をつけて，団地から他の車を締出す

[頭上注意]（47.7.23）

東京日野市高幡台団地も，札つきの欠陥団地のひとつ。ベランダが傾いたという届け出で，鉄パイプの支柱で補強したまではよかったが，以来1ヵ月余，なんら音さたなし。ある主婦はしみじみいった。「鉄格子の中に入れられたような感じよ。公団は，住んでいる人たちの発言や要望も封じ込めちまうつもりじゃないのかしら」

[2DKじゃイヤ]（47.8.3）

（中略）「2DK時代は過ぎ去った。これからは3DK以上でないと」と公社の関係者は頭をかかえ，見通しの甘さを悔やんでいる。

入居者サッパリの北砂4丁目都住供分譲住宅

[団地入居お預け　バスターミナル 建設こじれて　千葉]（47.8.12）

すっかり完成しているのに1ヵ月半もカラッポになったままの団地がある。日本住宅公団が千葉市さつきヶ丘に建設したさつきヶ丘団地。公団が予定していた，団地と国電総武線新検見川駅を結ぶバスのターミナル建設に，建設予定地の同市花園町1丁目の人たちが反対。（中略）

バスターミナル予定地は，花園町の住宅街と隣接しており，周辺の道路は狭く①排気ガスや騒音公害をかぶる②学校，幼稚園があるので交通安全がおびやかされるなどが反対の理由となっている。

【してつ 途中下車〈70〉】［緑の街「田園調布」］（47.9.21）

東急電鉄　作りあげた高級住宅地　住民に強い誇り

首都圏で巻起こる日照権紛争の住民パワーなどは次元が異なり，第一種住居専用地域として完成しきった街だが，やはり，何となく庶民とは無縁の街。

【してつ 途中下車〈75〉】［ニュータウン聖蹟桜ヶ丘］（47.9.29）

京王帝都電鉄　山野のむ宅造の大波　「ハイク」から「通勤」拠点に

十数年前まで雑木林の丘陵が続いていた一帯は，かつて明治天皇が狩りを楽しんだところ。

（中略）ウサギやキツネなどがいた丘陵は，いまブルドーザーが走っている。山を削り，谷を埋め，雑木林に変わって“団地”がどんどん建っている。八王子，町田，稲城，多摩の4市にまたがる日本住宅公団と都の“多摩ニュータウン”のツチ音だ。（中略）

[公団またも“常時募集”]（48.2.3）

吉川団地，800戸ガラあき

（中略）都心まで2時間近くもかかるのがたたったもので「建てさえすれば」という公団の甘い思惑はまたもはずれた。

[記録更新!? 0.3倍公団 「遠くて高い」幸手団地]（48.2.13）

（中略）さきに問題になった同県北葛飾郡「吉川団地」の応募率0.5倍より低い公団始まって以来の“最低倍率”を記録した。

このところ，郊外団地で“空家”が目立っているが，いずれも都心への通勤時間が1時間半から2時間半もかかるための現象。公団では「都心に適当な土地がみつからない現状では，郊外に進出する以外にない。間取りをもっと広くしたいが，家賃が高くなるし…」と“きらわれ団地”の対策に苦慮している。

[進む人口ドーナツ化 「東京は職場，家は近県」]（48.2.13）

埼玉，千葉，神奈川は半都内 都の調査

[朝のラッシュ“ノロ急”電鉄に乗る 時速24キロ「15分遅れは当然」]（48.6.13）

宅造のせい!?「ダイヤ限界です」小田急

（中略）急増する団地や自社開発も含めての宅造ブームで，沿線人口はふくれる一方。列車は増発に次ぐ増発。「ダイヤはもうギリギリの限界」と会社側。（中略）

[団地にカイコブーム]（48.6.13）

自然の息吹き 目輝かす子ら

子供の周囲から自然が失われている時，埼玉県大宮市本郷団地27-275，主婦，増本恵子さん（40）ら11人のママさんたちが「子供に自然の大切さを教えよう」とカイコを飼育している。市内の小学校でも理科の教材に採入れるなどちょっとしたカイコブーム。コンクリートジャングルに育つ子供らは大喜びでカイコのエサ「クワ」探しに一生懸命だ。

〈首都圏情報〉[団地音頭の歌詞を募る]（48.7.25）

踊り踊るなら団地音頭で―と埼玉県春日部市の武里団地自治会（山口義信会長，約6,000世帯）が“武里団地音頭”を作ることになり，近く歌詞を募集する。

最近の祭りブームで団地でも祭り広場を設けて夏祭りや秋祭り，盆踊りを楽しむところが多くなっているが，ムードを盛り上げる音頭が市や町のものでは，地域になじみのない“団地族”に喜ばれない。そこで団地族がみんなで歌えて浮かれるものをというわけ。（中略）

[フロにも入れぬマイホーム 業者が排水手抜き 浦和の新興住宅街]（48.7.28）

配水管が不完全なために，浦和市三室西宿地区の新興住宅街（300世帯）では夏だというのに週1，2度しかふろに入れない。「下水道はすぐ完備されます」という不動産屋の広告を信じてようやくマイホームを手に入れた住民たちだが，排水場所がないのでふろや洗たくの水を道路や庭にまくなど“原始的”な方法で排水を処理している。（中略）

国電北浦和駅東口からバスで8分，さらに徒歩10分という便利な場所で，値段も400―700万円と手ごろだったため，東京へ通うサラリーマンたちが大部分を占めた。

しかし，移り住んでみて驚いた。台所の流し水，ふろ，洗たくの水を捨てる排水路がなく，道路わきのU

字溝も行き止まりになっており，水を流せばすぐ道路にあふれてしまう。

同市土木部では「あの地区の排水路は農家の個人使用のものが多い。民間デベロッパーが排水設備のないところにどんどん家を建ててしまい，市としても施設が追いつかないのが現状。周辺の農家に排水路の一部を提供してもらうよう交渉中で，来年の正月ごろにはゆっくりふろに入れるようにしたい」と説明している。

［団地の実態調査　東京・大阪・福岡］（48. 11. 24）

“買いだめ”わずかだった　3分の1が“騒ぎ”を無視

東京北区・赤羽台団地　大阪堺市・泉北ニュータウン　福岡市西区・原団地

［団地サイズ の問題］（48. 12. 8）

“食寝分離”も狭すぎて　機能みたされぬDK

（中略）ふつうサイズより小さい畳を基準にした“団地サイズ”が生まれた背景には，住宅不足解消のために，質より量という考えがあった。住宅難は依然としてきびしいが，一方では住宅における質の向上を望む声も強く，公営公共住宅は転換期にあるといわれる。（中略）

（つづく）

（にしわき　かずひこ　　文化創造学科夜間主教授・近代文化研究所所員教授）